



かつて武士たちが 暮らした街並み

島原城の西に続く一帯を、鉄砲町と呼びます。鉄砲町は島原城の築城とともに形成され、鉄砲町の名は鉄砲組（徒士）の住居地帯であったことと、造成当時隣家との間に堀がなく、まるで鉄砲の筒の中を覗くように武家屋敷街が見通せたので、その名がつけられたと言われています。

7つの町筋は碁盤の目のようにできており、ここには扶持（ふち）取り70石以下の徒士（かち）屋敷が690戸ありました。

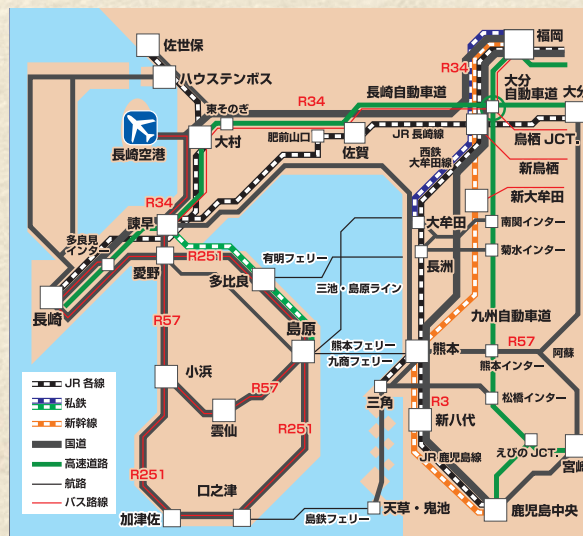
町筋の中央に流れる清水は、北西の「熊野神社」を水源とし、飲料水として使われ、水奉行を置き、厳重に管理されていました。

現在、保存されている下の丁の武家屋敷は、延長406.8メートル、幅長5.6メートルの町並みで、山本邸、篠塚邸、島田邸の3軒が一般に無料開放され、当時の武家生活の様子が偲べれます。また、武家屋敷休憩所では白玉に独特の蜜をかけた郷土の味「かんざらし」が楽しめます。

しまばらに
なおも弛まずふつつと
心安らぐ湧水あり



◎ アクセス MAP ◎



◎ 交通アクセス ◎

- 島原港—熊本港……………熊本フェリー／約30分、九商フェリー／約60分
- 島原港—大牟田（三池）港…高速船／約50分
- 多比良港—長洲港……………有明フェリー／約45分
- 島原—福岡……………高速バス／約3時間
- 島原—諫早—福岡……………島原鉄道／（急行）約50分～
諫早駅～JR／（特急）約1時間45分

◎ お問い合わせ ◎

株式会社島原観光ビューロー

島原市観光案内所 ☎0957-62-3986

島原城天守閣事務所 ☎0957-62-4766



湧水と歴史の街

島原武家屋敷

清流を湛えて、島原を讃える

ここは、島原武士の屋敷跡

鉄砲を主力とした徒士部隊の住居だったことから鉄砲町と呼ばれ、

町筋には趣深い石垣が穏やかに続いている

島原の湧水を利用した、道の中央を流れる水路

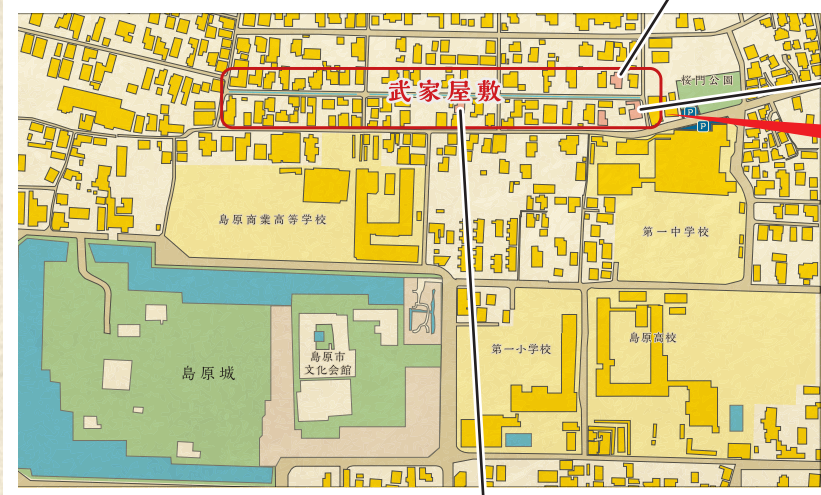
その、清らかな美しい流れは昔も今も変わらない



[武家屋敷散策マップ]

島原城の外郭の西面に下級武士の住まいが建設されました。長さ約400mの屋敷町で碁盤の目のようにきれに並び足軽・鉄砲組が住んでいたことから「鉄砲町」とも呼ばれます。

現在の地図



鳥田邸



材木奉行・宗門方加役・船津往来番などの重職のお屋敷

鳥田家は松平藩主の草創以来の古い家柄で、藩主に仕えて三河国吉田、丹波国福知山と転じ、寛文9年(1669年)に島原に入りました。歴代地方代官・郡方物書などを勤めましたが、幕末には材木奉行・宗門方加役・船津往来番などの重職についていました。鳥田邸は現在も保存され、屋敷の一部が公開されています。



武家屋敷売店

湧水で冷やしたラムネなどがいただけます。

☎0957-63-1087



ラムネ

篠塚邸



郡方祐筆(書記)のお屋敷

この屋敷に住んでいた篠塚順右衛門は、松平藩主の三河(愛知県)時代からの家臣で、藩主に随行して島原へやってきました。明治時代まで11代続き、主に郡方祐筆(書記)や代官などを務めていました。屋敷は現在も保存され、一般に公開されています。



山本邸



砲術師範の屋敷

ここに住んでいた山本家の初代佐五左衛門は、松平藩主の三河(愛知県)時代からの家臣で、藩主に随行して島原へやってきました。代々砲術師範として藩の重職を歴任し、幕末まで前後13代の城主に仕えました。17石2人扶持で、下級武士には珍しいといわれるこの門構えは、藩主から特別に許されたものだそうです。当時のままの武家屋敷として今も残っており、貴重な文化財となっています。



江戸時代後期の地図

